コーちゃん・オーちゃんの「見つけた！豊岡元気人」

朝市で地域も人も元気にする 笑顔で出迎える元気人

毎週土曜日の午前6時。竹野町河内の国道178号沿いが大勢の人でにぎわっています。それは「河内ふれあい土曜朝市」。その市の代表者を紹介します。

達富鶴己（つるみ）さん（72歳）竹野町河内

▲行列のできる会計所に並ぶお客さんに話し掛ける達富さん

開店と同時にかごいっぱい

「朝早くから、ありがとうございます。もう今日は売り切れました。またお越しください」と、お客さんに話し、応対する達富さん。

午前6時の開店と同時に品物が次々に売れていき、お客さんの持つかごは、野菜や加工品などでいっぱいになり、数時間で売り切れます。

中古ハウスの朝市

達富さんは、この市を開くまで、シイタケ栽培を35年間続けてきましたが、中国産のシイタケの輸入により、価格が下がり、国産の需要も落ち、転機を迎えていました。

そんな中、農業経験を生かし、農産物直売所をやってみようと、平成9年から3年間、県の研修会で指導を受けました。また同時に、自分の土地を提供し、3年掛けて自力で建物を完成させ、平成11年7月20日に「河内ふれあい土曜朝市」をオープンさせました。

フリーマーケットのように

朝市の運営について達富さんは「みんなから選ばれた組合長や役員では身動きが取れないので、組合組織にはせず、グループとして、そして、フリーマーケットのように持ち寄って、一人ひとりがその日のうちに売上げを受け取れるようにしました」と話します。

朝市に、わが家で採れた野菜や加工品を持ち寄る19人のメンバーは、伸び伸びと元気にお客さんやほかのメンバーとふれあっています。

メンバーの中には、研究熱心で食品衛生管理の資格を取得する方もあります。

「メンバーが積極的に取り組み、お互いを理解し、引っ張り合いをしないことと、言葉使いなどには、気を付けています」と達富さんは話します。

お客さんとのつながりを大切に

朝市には、市内外からお客さんが訪れます。遠くは京阪神から来る方もあります。中には、竹野や香住の民宿の方が食材を探しにも来られます。

店頭に並ぶ物で、特に人気があるのは、旬の物で、春はフキやゼンマイなどの山菜、夏は盆花、年末には、しめ縄やもちなどです。

また、ここでは、お客さんからの要望にできるだけ応えて、満足していただこうと、いつ、何を、どれくらい必要なのか、注文を受けています。

達富さんは「来られたお客さんにまた来ていただけるように、品切れになっても、朝市は、正午まで開けています。お客さんとのつながりを大切にしています。お客さんと会話があるからできるのです」と話します。

▲豊岡市農産物直売所連絡協議会の会長も務める達富さん。趣味はドライブ。月1回は、社会見学で市外の朝市を視察します

コーヒーを飲みながら

「皆さんが、温かみを感じられて、来るのが楽しみで、くつろげる場所になるように心がけています」と話す達富さんは、次々と訪れるお客さんに笑顔でコーヒーを振る舞っていました。

保育園に広報マンがやってきた！ 16

豊陵保育園（豊岡）

〈園児139人〉

市街地に位置する豊陵保育園。5月8日、「花まつり」が行われましたので、その様子をのぞいてみました。

お釈迦さまと白いゾウを引っ張るぞ！

園児たちは、先生から「今日はお釈迦さまの誕生をお祝いする日です。お釈迦さまの誕生日は、4月8日ですが、豊岡では、花が咲く1カ月後に花まつりをします」との話を聞きました。

園児らは、お釈迦さまのお母さんがお釈迦さまを産む前に、お腹に白いゾウが入った夢を見て、お釈迦さまを身ごもったとされる白いゾウの山車（だし）と、それに乗るお釈迦さまを市役所まで引っ張って行進するため、保育園を出発しました。

花まつり♪花まつり♪

園児らは、花まつりの歌を歌いながら豊岡駅通商店街をお父さんやお母さんらに見守られ、行進しました。もうすぐ市役所です。

記念写真をパチリ！

市役所に到着し、市役所前では、組ごとに庁舎を背景にお釈迦さまと白いゾウの山車と一緒に記念写真を撮りました。来た道を通り保育園に戻ります。

お誕生日おめでとう！甘茶おいしいね！

保育園に帰って来てから、ツツジやマーガレットなどの花で飾られたお釈迦さまに園児一人ひとりが、「お誕生日おめでとう」と、甘茶をかけてお祝いしました。

園児たちは、みんなで甘茶を飲み、「紅茶みたい。甘ーい」。

楽しい花まつりとなりました。

顔輪の笑

すべてが手作り、こだわりの人形劇を

人形劇団『ぱたぽん』（日高）

毎週土曜日に国府地区公民館で活動している人形劇団「ぱたぽん」は、平成15年4月に結成された5人のグループです。劇団名は、絵本「まりーちゃんとひつじ（フランソワーズ作）」に出てくるヒツジの名前に由来します。主に子どもたちのために、自分たちで作成した人形で年に6～7回の公演をこなします。

ごく普通の人形劇団が本格的に取り組むようになったのは、県のこどもの館が開催する人形劇講座に参加したのがきっかけで、初回の講座で全員がのめり込んでしまったそうです。

講座では、人形の作り方、構成、脚本、舞台装置など「本物の人形劇」の作り方を学ぶと同時に、演じる楽しさも実感しました。

人形の作成時には、出来を左右する「目」の色、形、位置に特に気を使います。

代表の山崎町子さん（日高町上郷）は「公演先の子どもたちから手紙や絵をもらったりすると大きな励みになる。良いものは人に見せたくなるし、喜んでもらえると一層うれしい。人形劇講座への参加は、一つのことに熱中できる充実感の元になった」と話します。一方で「平均年齢が高く、人数が少ないため、活動にも限界がある。遠方での公演もできないのが悩みかな」とも…。

「ぱたぽん」は、人形劇をもっと知ってほしいと、初の試みとして、6月～7月に人形劇講座を開設します。

問合せは、国府地区公民館まで。☎42－5244

▲新作「赤ずきんちゃん」の完成です